



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 私たちの道しるべ “Well-being(ウェルビーイング)”
～生きるを見つめて”幸せになろうね！幸せになろうよ！”と願う～〕

今年ももう12月になりましたね。一年の締め括りの月、師走ともいわれています。私のように齢を重ね終括の準備をしているものにとって、保育園での子もたちの一年の日日(にちにち)の旅立ちは嬉しくもあり、羨ましく感じるものであります。特に乳児・ばら組さんからの”人の成り立ち期の歩みのはじめ”を見つめていると、「日日とは一日一生を歩みながら自分を創るための経験・体験を積み重ねていく場である」と改めて思い知らされました。

そして、その役割を担っている私たち(社福)童心会の「人間学と人間科学に基づく人間教育」への取り組みの重要性をさらに強く感じさせられています。

昔から子育てという人間の未来につなげる行為は、家庭だけでなく未来社会というコミュニティ(communitiy共同体)で群育ち(大家族・ご近所・ガキ大将のいた子ども社会etc.)の中で育ち育てあうものと教えられて体験してきました。

しかし、こうした社会教育力(家庭の教育力・ご近所の教育力・子ども社会の教育力・学校の教育力・地域社会の教育力)が失われた今、私たちはどのような未来が広がる明るい社会(共同体)を構築していくことができるのでしょうか？私たちは「子どもたちの泣き声や遊ぶ声は騒音であり、保育園や公園など子どもたちの施設は迷惑施設である」という身勝手な高齢者や地域住民の怒号のこもった苦情や意見を昨日のことに忘れてはいません。

昔からこの”日本”の国は子どもを大切にする国であるという外国人の見聞録の中にあつたようです。だから世間の習わしの中に「生みの親、育ての親、拾い親」という言葉まで存在していたのです。そして「”つ”のつく齢までは”神の子」といわれ、1つから9つまでの子育てを村全体での責任」と認識していたそうです。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

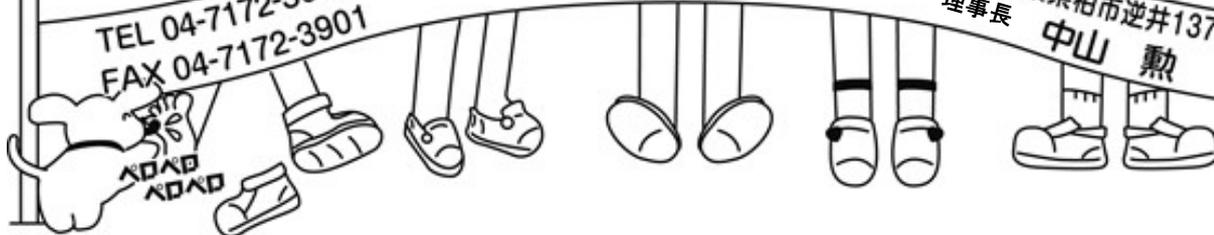


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

社会福祉法人 童心会

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



こうした子育て文化が失われた今、隣国中国では「三低三少」という経済的・社会的な事柄が反映した大きな社会問題が起きています。

事件の起きた原因は違いますが、このような経済的・社会的な不安定さは、うつ病や不安障害などの精神的な健康問題を引き起こす要因となり、孤立感や無力感が強まります。また、社会とのつながりが弱まることで、人々は共同体意識を失い、犯罪率や社会的不安も増加する可能性があるというのです。

同じようなことがどこかの国で起きている社会現象のような気がします。そうです！日本でも「政治・経済・社会・福祉・教育の世界で失われた30年」と言われ続けてきましたが、「失われた子育て文化」はもう50年以上もの永きにわたって「三世代につながる世代間連鎖(伝達)」といわれるような状況を呈しているのです。

〔日本の子育て文化の現状〕

- | | |
|-----------|-----------------|
| ・子どもの貧困 | ・多面的な貧困 |
| 1. 経済的な貧困 | 1. 機会の貧困 |
| 2. 関係性の貧困 | 2. 知識や情報の貧困 |
| 3. 経験の貧困 | 3. 文化や言葉の貧困 etc |
| | 4. 健康の貧困 |

これらを総じて私は「体力の貧困・生命力の貧困・精神力の貧困」と解釈し、子どもたちには大人になっても忘れてはならない”三つの訓え”を約束しています。それが「がんばること(体の力)・つづけること(学ぶ力)・がまんすること(心の力)」です。

しかし、今年6月に開催された第66回全国私立保育研究大会(栃木大会)でちょっと齢(よわい)を重ねた新進気鋭の大豆生田啓友氏(玉川大学教授)が保育を取りまく危機的な状況に触れ、「保育の話はこの国の未来の話である」と言っているのです。保育がまちづくりにつながるという視点に立ち、「保育園が社会を変える力を持っている、だから社会全体で子どもを育てる町づくりをしなければなりません」と力説していたのです。

私たちはこのお話を聞いて改めて「人間学と人間科学に基づく人間教育」とは”自分まんなか社会”の中で人間学の訓えが原点にある人間性を高め「良質な社会の構築(価値観の共有)」を図りながら”私たちの道しるべWell-being(幸せの実現)”という社会全体の幸せにつながるという大きなビジョン(将来展望)を確かなものにしななければならないと思いました。

改めて(社福)童心会の考える理論から「人の子育ち・子育て論」を見つめた時、私たちは「ヒト(新生児)と人とのコミュニケーション(意志交換)」を大切にしなければならないと思いました。それは赤ちゃんの時代から、感情(喜怒哀楽)や情動(恐れ・不安)に対して真剣にどのようにServe & return(やりとり・受けこたえ)をしたかが問われているからです。

このような人間の尊厳・存在(生きる)を認め合う姿勢から自敬・自尊心が生まれ育つ姿を長い臨床保育の実践の実績から胸を張っていえる言葉なのです。その人らしい人格を認めあう社会、大人だけでない子どもだけでもない地域のすべての人たちがWell-being(心も体も健康で社会的にも豊かな生活)を送ることができる人たちを育てることです。

私たちはいつも皆さま方の幸せを心から念じ祈り続けています。幸せになろうね！幸せになろうよ！

どうぞ良いお年をお迎え下さい。

令和6年 12月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲